

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003. 1

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 225

日本野鳥の会 埼玉県支部

嵐山町ぶらり散策・鳥めぐり

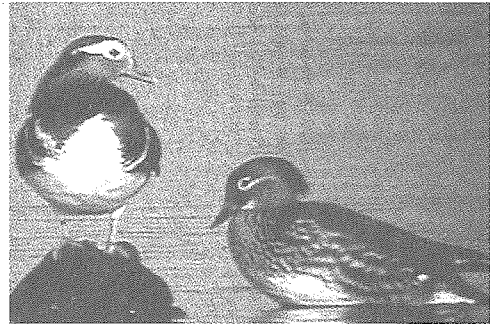
後藤康夫（嵐山町）

嵐山町は都心より60km圏に位置し、秩父連山を背景に都幾川、槻川の合流点を擁している。都幾川の上流は都幾三波渓谷、槻川の上流は定峰峠へと続く。また、川沿いには広大な田畑が広がり、自然豊かな“里山”でもある。

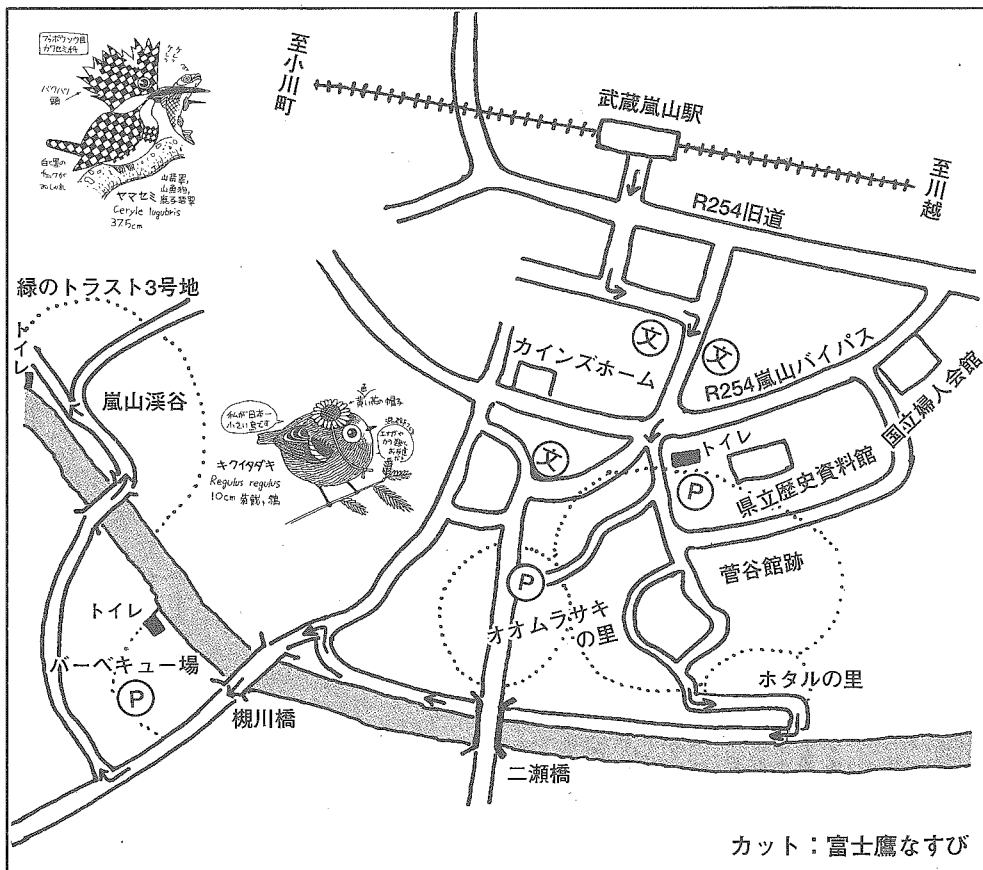
1. 菅谷館跡及びオオムラサキの里、

ホタルの里周辺

国道254号線嵐山バイパス沿いに位置する菅谷館跡は、鎌倉時代の武将畠山重忠ゆかりの地でもあり、戦国時代の土塁、空堀等が残っており、国の史跡ともなっている。中心部には広い芝生のスペースがあり、館跡全体がクヌギやコナラ等の落葉樹に囲まれている。春～夏にはサクラやヤマユリが咲き、多くの見物客を楽しませている。鳥はカラ類、キツ



鴛鴦夫婦（村畑謙十老）



カット：富士鷹なすび

交通案内 電車：川越駅より東武東上線にて約35分 武蔵嵐山駅西口下車徒歩15分
車：関越自動車道「東松山インター」より約10分

ツキ類が多いが、季節に応じて様々な種類を観察できる。

隣接の県立歴史資料館から中央の道に出ると、目前に直進する脇道がある。両側が林となっており、ヤマガラを含むカラ類の混群が姿を見せてくれる。また、この付近ではゴジュウカラが姿を見せることも…。

直進すると、オオムラサキの里へと入って行く。こちらでは、アカゲラやオオタカの姿を度々目にする。中央の道に戻り奥へ進むと芝生のスペース。直進しても結構だが、ここにも右折する道があり、この近辺ではシメ、イカル、メジロの群れ、また、それと共に行動するクイタダキが見られる。

さらに進むと右手にあずまやがあり、その先から少し、山を下る。下りきった左手がホタルの里となっている。町では、シーズンにはホタルの観察会を実施しているので、興味のある方はどうぞ。ここには木道が設けられ、それに沿って進むと、こちらにもあずまやがある。この辺りで少し腰をおろして、のんびり観察してみよう。カケスが飛び回り、アオゲラやオナガ、さらにはジョウビタキ、アオジ等も…。

●2001年1月～12月の観察種●

ゴジュウカラ、クイタダキ、マヒワ、ニューナイスズメ他 48種。

2. 都幾川（二瀬橋～槻川橋～嵐山溪谷）

菅谷館跡周辺を観察後、都幾川にかかる二瀬橋へと向かう。京都嵐山を彷彿とさせるような情景がひろがり、町名の発祥地ともなっている。二瀬橋手前を川沿いに槻川橋（上流）へと向かう。この辺りでは、サギ類、シギ・チドリ類が見られ、またカワセミが多く見られる。右手の畑ではキジが姿をみせてくれる

今年も皆様と一緒に

日本野鳥の会埼玉県支部長 中島康夫

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家庭で、探鳥地で良いお年をお迎えのことと存じます。

今年、当支部は満19年を迎え、いよいよ20年目に入ります。発足当初260人の会員も現在は2600人と10倍にもなり、押しもおされもせぬ大きな支部に成長致しました。これも会員の皆様のご協力のお陰です。当支部の活発な活動により県内のバードウォッチング人口が着実に増えております。今後も発足当時の原点に戻り、多勢の方に野鳥のすばらしさ、自然のすばらしさ、自然の大切さを普及してゆこうと思っております。

最近の探鳥会に参加する方は社会的経験の豊富な方を多くお見かけします。当会は全員ボランティアで運営しています。その豊富な経験や特技をぜひ当支部で発揮して下さい。お手伝いいただける場所が沢山あります。今年も皆様と一緒に一歩でも前進できる支部を築いていこうではありませんか。

だろう。槻川橋まで来たら、橋の上から上流を、ぜひ観察してほしい。ヤマセミやオシドリが姿を見せてくれるかも…。

嵐山溪谷へは槻川橋を渡り、少し進むと右手に、月川荘（キャンプ場）の看板が出ている。そこを右折。5分程で溪谷に着く。きっと、キセキレイやカワセミが迎えてくれるでしょう。この辺りは県の緑のトラスト3号地として、自然を保全する形で整備が進められ、あずまややトイレも設けられている。

●2001年1月～12月の観察種●

ベニマシコ、アリスイ、アトリ、ミサゴ、クイナ、ルリビタキ他 81種。

■注意！ ただ今猟期中■

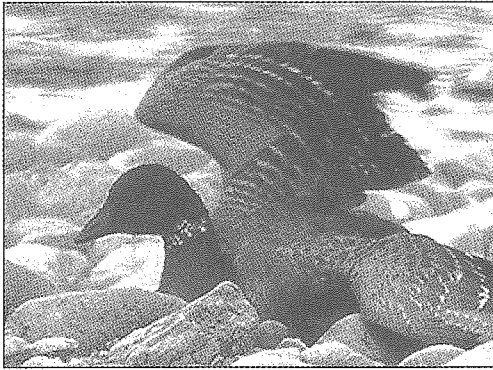
ご存知の通り、例年11月15日から翌年2月15日までは狩猟期間です。鹿と間違えて馬を撃つという信じられない事件も起きています。フィールドで誤射されることのないように、十分にご注意ください。

付近で銃猟が行われている所では、藪の中など、他から見えにくい場所での鳥見は危険です。特に猪の猟が行われている山は、犬の声と発砲音でわかります。近寄らない方がよいでしょう。

藪の中などに、畏が仕掛けられていることもあります。これも要注意です。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会



●コクガン

分類 カモ目カモ科シジュウカラガン属

英名 Brent Goose

学名 *Branta bernicla*

2002年11月3日(日)本庄市坂東大橋下流の利根川河川敷で、森田文三郎氏(本庄市)がビデオ撮影しました(上写真)。

その映像を見ると、石の河原にうずくまっていた1羽が、しばらくしてよろよろと羽ばたき、飛び去る様子が写されています。胸左下と下尾筒左側に大きな傷があり、左足が骨折しているようにぶらぶら垂れて見えます。足輪は見られません。雨覆の羽縁は白く、幼鳥の特徴を示しています。

その状況から、籠脱けである可能性も含めて委員会で検討を進めていたところ、2002年12月1日(日)北川辺町渡良瀬遊水地で開催された当支部の探鳥会で、本種5羽が記録されました。

メインリーダー橋口長和幹事の報告によれば、「当日の参加者43名。午前10時30分頃、第一調整池西橋近辺、埼玉県・茨城県境の南ブロックに成鳥2羽、幼鳥3羽のコクガンを発見し、参加者全員で観察しました」とのこと。当委員会の委員長小林みどりも参加していて、その場で本種と同定しました。

その後移動して距離が近くなったときに数人がデジカメで撮影し、右の写真はそのうちの一人、杵淵弘子さん(相模原市)が小林に

送って下さったものです。

本種は北極周辺で繁殖し、日本には冬鳥として飛来します。浅い海や内湾に群れていることが多く、内陸には入りません。当県での今までの記録はありません。

当委員会は、坂東大橋を第1例、渡良瀬遊水地を第2例として確認記録することにしました。

県内鳥類リストに第312番目の追加です。



県内年間鳥見ランキング、大募集!

2002年の鳥見の総決算として、第2回埼玉県支部年間鳥見ランキング、「参加した支部の探鳥会数ランキング」と「県内で観察した鳥種数ランキング」の記録を募集します。

2001年度の参加探鳥会数第1位は小川町の鈴木敬さん30回、県内観察鳥数第1位は橋口長和125種でした。

応募方法:「参加探鳥会数ランキング」支部ホームページから入力するか、参加した探鳥会の場所、月日のリストを郵送。

「観察鳥種数ランキング」観察日、観察地を記入したリストを、封書で郵送。

送り先:

橋口長和

締め切り:2003年1月31日消印有効

支部の会員に限ります。発表はホームページと『しらこぼと』で。

カワセミの縄張り-2年ごとの世襲制か?-

更科三郎 (入間市)

入間川に架かる「中橋」の下流あたりに生息するカワセミの写真を1993年5月から1998年12月まで専念して撮り続けました。撮った写真は、大半はボツにして捨て、残ったポジフィルムから陽画プリントをおこし、撮影データ、整理番号を記入した記録票に綴り、保管しています。

最近、記録票を整理してみました。『私のモデルを3年連続動めた縄張りの主はいなかった』という漠然とした記憶を確かめるためです。撮影した年月ごとにオスとメスの写真の枚数を数えました。嘴の下側に紅をさすのを見て性別を、胸毛の色合いが鮮明な琥珀色をしたものを成鳥と判断しました。つがい一枚の写真に収まっているものはオス、メスそれぞれ一枚と数えました。その結果、「表

表-1 カワセミのお写真

1-1 カワセミのお写真」のようになりました。7月、8月、9月と炎天下にテントを張り、サウナ状態のテントに入るのを嫌ったので、この時期の写真は少ないです。また、カワセミの兄貴分と思っているヤマセミの写真を撮りたくて高麗川や名栗川に出かけたこともあって、その間のカワセミの写真はありません。

そのことを大胆に反故にして、オスの写真の多い期間、メスの写真の多い期間、オスとメスが一緒に写っているつがいの期間と色分けしてみました。やはり、3年連続して私のモデルを動めた個体はいませんでした。カワセミは3年連続で縄張りの主にはならないということになります。さらに、何やら規則性のあるパターンまでが見えてきます。

繁殖期でない時期のカワセミは群を作らずに縄張り

の中で単独で行動しています。10月、11月になってつがいを形成し、約7ヶ月間、繁殖行動を行います。4月、5月ごろにヒナが巣立つと、つがいの片親は縄張りを去って姿を消します。自分の遺伝情報を子孫に残すために有性生殖を続けているわけですが、2シーズン目の関与を果たした後に縄張りを出て行くようです。居残った片親は縄張りを引き継ぎ、巣立った幼鳥の面倒を短期間みて、環境が整っていれば2回目の繁殖行動に関わり、そうでなければ次の繁殖期まで約6ヶ月間の単独行動に入ります。このパターンを見ると、カワセミの縄張りは、行方不明や死亡事故などがなければ、2年ごとの世襲制で引き継がれているように思えてきます。

表-1 カワセミのお写真

撮影年	撮影月	写真枚数		撮影期間			状況の補足説明
		オス	メス	オス	メス	つがい	
平成5年	1	137	7				入間川「中橋」下流の中州でカワセミの撮影開始。
	2	25	1				
	3	20	0				
	4	0	0				
	5	1	1				
	6	0	0				
	7	20	2				
	8	3	0				
	9	18	4				
	10	25	6				
	11	17	0				
	12	11	0				
平成6年 ('94)	1	5	12				つがいのオス、メスとも縄張りを去る。理由不明。 足翰をした幼鳥のオス現れる。
	2	2	28				
	3	4	17				
	4	8	0				
	5	1	0				
	6	0	37				
	7	0	0				
	8	0	0				
	9	14	25				
	10	0	34				
	11	4	36				
	12	16	40				
平成7年 ('95)	1	3	211				足翰のオス単独行動6ヶ月。縄張りの主になる。 足翰のオスが1月にメスとつがいを形成。繁殖行動に入る。 繁殖行動4ヶ月 足翰のオス縄張りを去る。メスが居残る。
	2	143	112				
	3	160	86				
	4	150	102				
	5	6	6				
	6	46	0				
	7	0	0				
	8	0	0				
	9	0	0				
	10	130	32				
	11	10	0				
	12	63	0				
平成8年 ('96)	1	0	0				繁殖行動7ヶ月。 縄張り2年目のメスが縄張りを去る。オスが居残る
	2	0	0				
	3	9	9				
	4	22	1				
	5	0	0				
	6	0	0				
	7	0	0				
	8	0	0				
	9	0	0				
	10	0	0				
	11	0	0				
	12	0	0				
平成9年 ('97)	1	0	0				繁殖行動7ヶ月。 縄張り2年目のオスが縄張りを去り、メスが居残る
	2	0	0				
	3	9	9				
	4	22	1				
	5	0	0				
	6	0	0				
	7	0	0				
	8	0	0				
	9	0	0				
	10	0	0				
	11	0	0				
	12	0	0				
平成10年 ('98)	1	0	0				高麗川、名栗川などにヤマセミを撮影。入間川中州でのカワセミの撮影は無い。前年度の観察結果から類推して繁殖行動に入った時期を仮定。 縄張り2年目のメスがオスとつがいを形成し、繁殖行動に入る。繁殖行動7ヶ月。 5月6日オスが行方不明。5月31日メスが車にひかれて死亡。巢の中でヒナ2羽餓死。
	2	0	0				
	3	138	92				
	4	43	84				
	5	10	49				



岩槻市岩槻文化公園 ◇9月21日午後3時頃
キビタキ♀1羽、ムシクイ類1羽。9月22
日午前9時30分頃、村国池奥の林の杉の木
のてっぺんでサンバ1羽。渡りの途中と思
われる。9月23日午後4時頃、キビタキ♀
1羽、エゾビタキ1羽。上空にアマツバメ
4羽。9月24日午前9時30分頃、エゾビタ
キ4羽、ネムノキにとまっていた。オオタ
カ幼鳥1羽、カラス3～4羽にモビングさ
れ、クヌギの木立に逃げ込んだ。カケス1
羽、フワフワ飛ぶ。9月25日午前9時頃、
エゾビタキ4羽。9月26日午後1時頃、ツ
ツドリ若鳥1羽、クヌギの木にとまり、大
きな緑色のイモムシを必死に飲み込んでい
た。9月27日午前8時頃、エゾビタキ2羽。
荒川河畔でカルガモ、コガモ群れ中にヒド
リガモ1羽。10月1日午前9時頃及び午後
1時頃、ツツドリ成鳥1羽がネムノキにと
まり、尾羽を広げたり、羽づくろいしたり
していた。他にトケン類1羽。エゾビタキ
とキビタキ♀1羽が共に行動していた。他
所でキビタキの声。10月2日午前9時頃、
台風一過。昨日と同所でエゾビタキ2羽、
何とか暴風を乗り切った模様。10月4日午
前9時頃、エゾビタキ2羽。キビタキ♀2
羽が別々の所のブッシュにいた。小型猛禽
がカラスに追われ、逃げたが確認できず。
カケス4羽が上空を飛び、さらに1羽以上
いた。10月7日、「ピピピ」とけたたまし
く鳴き、藪から飛び出す茶色い鳥、続けて



カワセミ (編集部)

もう1羽。コジュケイだった。そして、そ
れを追うオオタカ若鳥1羽。結局、狩りに
失敗し、カラスが集合してしまった。その
他、カケス3羽以上、エゾビタキ1羽、シ
ョウドウトバメ上空で約10羽。10月8日、
エゾビタキ2羽、キビタキ♀3羽。オオル
リ若鳥1羽。頭はオリーブ褐色だが、風切
羽、尾羽はブルーだった。カケス3羽以上。
10月9日、エゾビタキ3羽、カケス3羽、
キビタキ♀2羽。昨日と同一個体と思われ
るオオルリ若鳥1羽、ヒタキ類2羽。10月
10日、キビタキ♀3羽、エゾビタキ1羽。
オオルリ幼鳥2羽、8日、9日とは全く異
なる場所で、青味もずっと少ない個体だっ
た。ハイタカらしい猛禽が上空を通過。10
月11日、サメビタキ2羽。1羽はすぐに見
えなくなったが、もう1羽は4～5m先
の目線の高さの枯れ枝にとまり、羽づくろ
いしたり、尾羽を広げて伸びをしたり、フ
ライングキャッチしたり、じっくり姿を見
せてくれた。コサメビタキより全体が暗色、
胸も汚暗色、短めの嘴、長めの風切。じっ
くり観察できた。キビタキ♂1羽、♀2羽。
♂にはなかなか近づけなかった。10月12日、
キビタキ♂1羽、♀2羽。10月15日、キビ
タキ♀2羽以上。ツツドリ成鳥1羽、尾羽
がなかった。10月18日、カケス5羽以上。
キビタキ♀2羽、ジョウビタキ♀1羽、今
季初認。キビタキ、ジョウビタキ共にミズ
キの実を食べていた (鈴木紀雄)。

春日部市大池親水公園 ◇11月3日午後3時
～3時30分、コガモ16羽、キンクロハジロ
75羽以上、ホシハジロ1羽、コサギ1羽他。
11月10日午後2時50分～3時30分、コガモ
27羽、キンクロハジロ70羽以上、ホシハジ
ロ1羽、ユリカモメ15羽、コサギ1羽、カ
ワセミ♀1羽、ウグイス1羽地鳴き他 (石
川敏男)。

蓮田市黒浜 ◇10月15日、療養所内でキビタ
キ♀1羽。ゴルフ場の森でアカゲラ♀1羽。
10月18日、療養所内のヒバの木でマヒワ30
羽以上 (鈴木紀雄)。

吹上町小谷荒川河川敷 ◇10月19日午前8時
～10時、タゲリ18羽、ツルシギ2羽。それ

と、何とダイゼン冬羽1羽。初めはムナグロのつもりで見ていたが、飛んだ時、脇の下がはっきり黒く、白い腰も確認。本種は内陸では珍しい。吹上町小谷付近の荒川河川敷は、台風等で冠水するとシギ・チドリ類がしばしば見られる(逸見嶮・榎本秀和)。

さいたま市日進町1丁目 ◇10月28日、ジョウビタキ初認。10月31日、アオジ、シメ初認。11月8日、ビンズイ、ツグミ初認。ビンズイは3羽で、私に驚いて飛び立つ時に1羽がガラス窓に衝突して落ちた。腹を上にして目をばちばちして動けず、脳しんとうを起しているようだった。20分後に見たら起き上がってうずくまっていた。2時間後に見たら、もういなかった。飛び立ったようだ。死んでしまったら後味が悪かったのだが、やれやれ救われた(森本國夫)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇10月29日午後12時40分頃、こどもの森れんじやくの丘右側踏み跡から入った林の奥、縦の舗装路手前でアオゲラ♂1羽。きれいな成鳥個体で、10分程その辺りの木で鳴き移りながら採餌。その後、1時間待機したが現れず。秋ヶ瀬公園ではこの4年間通っていて初めて(加藤研二)。

吉見町八丁湖 ◇10月23日午後2時、キビタキ♂1羽、ジョウビタキ♂1羽(逸見嶮、吹上野鳥の会メンバー)。

川本町荒川明戸堰上流 ◇10月26日午前7時30分～9時30分、コハクチョウ成鳥3羽、幼鳥3羽、今季初飛来。マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、ツグミ1羽、タヒバリ4～5羽、ショウドウツバメ5～6羽(後藤康夫)。

大里町箕輪 ◇10月27日午後4時頃、もうタ



ジョウビタキ(編集部)

ゲリが来てもいい頃だと思いながら広域農道みどりの道を車で走っていたら、やはりいた。群れが水田に降りるのが見えたので車をわき道に乗り入れて観察。23羽だった。この道路沿いでは毎年タゲリが見られる(森本國夫)。

騎西町正能交差点 ◇11月4日午前9時14分頃、交差点北側上空でコハクチョウ1羽。正能交差点にて赤信号で停車中の時、前方上空に1羽の白い大きな鳥が羽ばたきながら接近してきた。サギかなと思ったが、体全体が太めだし、首は太く、S字状に曲げてもないし、嘴が短い、あれ?と思いつつ、目視続けたら、嘴の付け根辺りに白っぽい三角状の点を視認できたのでコハクチョウと判断した。朝の青空を背景に全身白い個体が大きく羽ばたきながら交差点北側上空を右折し、東方、行田市方面へ向かった。探鳥会リーダーの中里さんに話したら、付近には見沼用水があり、以前にもコハクチョウの飛来記録があるとのこと(石川敏男)。

熊谷市万吉 ◇11月8日、ツグミ初認。朝、家の前に出たらツグミの音が聞こえてきた(森本國夫)。

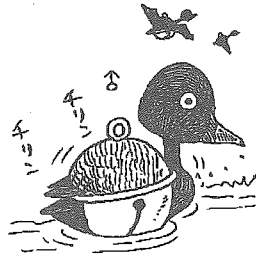
表紙の写真

ヨシガモ(カモ目カモ科マガモ属)

ある日、彩湖の岸に上がって、カルガモと一緒に草を食べるヨシガモを見た。不思議に思って、清棲幸保著『野鳥の事典』を広げてみた。「植物質ではイネ・ヒエの種子・タデの種子・アマモの葉、茎、根、クロモなどを好んでとり、動物質ではシジミ・カワニナなどの貝類や水生昆虫のカワグモなどを食物とする」とあって、やはり地上植物の葉を食べるとは書いていない。いろいろありますね。

写真と文・蟹瀬武男(さいたま市)

行事案内



スズガモ (富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も (なくても大丈夫)。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集会所までお出でください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月3日(金・祝)

集合：午前9時30分、さぎ山記念公園入口。
交通：大宮駅東口7番バス乗り場から大01、大02、大02-2系統で約20分、「さぎ山記念公園」下車。正月ダイヤの間合せ先048-812-1577国際興業さいたま東営業所。

担当：海老原、楠見、福井、工藤

案内：毎年恒例で15回目、食べ物飲み物持ち寄りの探鳥会。見沼田んぼの冬鳥たちに新年の挨拶をした後、野外新年会!

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月5日(日)

集合及び交通：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス1番バス停前。集合後、春日部エミナス行き8:45発バスにて「共栄大学・短大前」下車。又は午前9時15分、アスレチック公園前駐車場に集合。

担当：吉安、橋口、中村(榮)、新井(良)、松永、宮下、吉岡(明)、田村、廣川、野村

見どころ：新春の冬鳥達が、春日部の内牧で皆さんのお越しをお待ちしています。

千葉県船橋市・船橋海浜公園探鳥会

期日：1月5日(日)

集合：午前10時、船橋海浜公園バス停。
交通：JR船橋駅南口から南へ300m、船橋海浜公園行バス(9:20、9:40発)に乗車、終点下車(大人230円)。
解散：12時頃、現地にて解散。

担当：杉本、佐久間、菱沼(一)、斎藤

見どころ：ミヤコドリは、越冬数の記録を更新中。スズガモの中からウミアイサヤホオジロガモを探しましょう。

その他：東京支部も同日に開催。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月8日(水)

集合：午前10時10分、森林公園南入口前。
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:59発バスにて終点下車
解散：午後0時30分頃
費用：入園料400円(子供80円)

担当：藤掛、大坂、池永、石井(幸)、櫻庭、兼元、高橋(ふ)、堀(敏)、堀(久)、高橋(優)

見どころ：南口から中央口の大沼までのコース。昨年度のガン・カモ・ハクチョウ類の調査結果では8種388羽が記録されています。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷駅9:11発、又は、寄居駅8:49発に乗車
解散：正午頃

担当：中里、和田、森本、後藤、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤

見どころ：初春の大麻生で鳥達と新年のご挨拶。今年こそ、健やかで、穏やかな年でありますように…。冬ざれ土手の上、吹く風は肌を切る思い、防寒をしっかりと。

松伏町・緑の丘公園（仮称）探鳥会

期日：1月13日（月・祝）

集合：午前10時15分、松伏町大川戸緑の丘公園予定地。

交通：東武伊勢崎線、せんげん台駅下車、東口で茨急バス大正大学入口行き9：20、又は9：45乗車、新川西バス停下車。尚、公園予定地のため駐車場はありません。

解散：正午頃

担当：橋口、榎本（建）、田邊、吉岡（明）

見どころ：ここの探鳥会も2回目。この公園は20年計画で建設されています。今年は記録のなかったケリやユリカモメも来てくれました。近くの古利根川でシラコバトに会えるかもしれません。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月13日（月・祝）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅2番バス乗り場より「下笹目」行き8：37発にて「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。交差点まで戻り、左折して土手を越える。

解散：正午頃

担当：倉林、藤掛、百瀬、有馬、森（秀）、馬場（友里恵）

見どころ：冬鳥達が集合して皆さんをお待ちです。

久喜市・久喜菖蒲公園昭和池探鳥会

期日：1月18日（土）

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

交通：JR宇都宮線白岡駅下車、西口より朝日バス菖蒲仲橋行き8：40発にて除堀（よけぼり）下車、徒歩15分。バス停からはご案内します。

解散：正午頃

担当：大坂、玉井、内田、長嶋、伊藤（隆）

見どころ：1000羽ほどの飛来が期待されます。その中からトモエガモやヨシガモを探してみましよう。防風対策を十分に…。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）。又は、

午前9時、さいたま市立浦和博物館。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、若林、倉林、森、小菅、新部、赤堀、兼元

見どころ：昨年とも鳥を中心として、人々の感動や語らいがありました。今年も元気に楽しく行ないます。自然を孫たちの時代に残すために、知人・友人を誘ってお出で下さい。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前9時15分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8：17発、又は、東武東上線川越7：37発で寄居にて秩父鉄道8：45発三峰方面に乗り換え

担当：小池（一）、佐久間、青山、井上、堀口、堀（敏）、堀（久）、大澤、喜多、小池（順）

見どころ：毎回水辺の野鳥を中心に40種前後が観察されます。参加者お目当ての2種はどうでしょうか。河原を歩きますので、足揃えは十分をお願いします。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乘車

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田

解散：正午頃、稲荷山公園にて

見どころ：冬枯れの景色もカワセミやカモの姿が入ると絵になるから不思議。自然の描く一瞬の絵画をお楽しみ下さい。

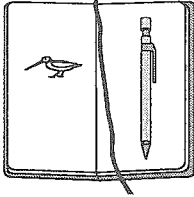
蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、中村（榮）、吉安、松永、長嶋、長野、榎本（建）

見どころ：沼をにぎわすカモ、水際を歩くオオバン、アシの茎をついばむオオジュリン、枝にとまるシメ…。カワセミ、オオタカ、アカゲラも期待します。



行事報告

9月21日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田貴子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

9月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 31人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 11年目でアカゲラが初めて確認された。記録されてそうで出てない鳥も案外いるものだ。入間川にコガモがやってきた。これから次々に冬鳥が来て、フィールドもにぎやかになる。この冬、初顔は現れるだろうか。(長谷部謙二)

9月23日(月、休) 坂戸市 高麗川

参加: 36人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジバト アマツバメ カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカルスズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) キンモクセイの花の香りと彼岸花。カワセミ、ノビタキ、そしてイカルの群れが道先案内。暑かった夏を忘れさせてくれた。天神橋が通行止めとなり、コースを変更。鳥合わせ中も、ツツドリが現れ、36人参加で36種。初参加の方が青い鳥(カワセミ)がとてもきれい

だったと初々しい発言。

(藤掛保司)

9月29日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 25人 天気

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コガモ トビ チョウゲンボウ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 集合地の上空をショウドウトツバメが舞い、途中ではノビタキが何度も姿を見せてくれ、秋を感じさせてくれる探鳥会となった。鳥合わせ中、カワセミとアオサギが姿を現し、セーフ。(北川慎一)

9月29日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 25人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ イソシギ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 公園から農耕地そして中川の土手道をゆっくり歩きながらサギ6種の識別をじっくり勉強した。ここでは定番のシラコバトも初めて見た人が感激していた。ノビタキの群れが見られたのにはラッキーの声が上がった。鳥の数は少なめだったが、共催の松伏中央公民館からも8名の参加があり、その方々から「次回はいつですか」とのうれしい声も聞かれた。(田邊八州雄)

10月6日(日) さいたま市 秋ヶ瀬大久保農耕地

参加: 30人 天気: 曇

カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ キジ タシギ オオジシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨド

リ モズ セッカ シジウカラ メジロ カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (23種) 台風の後には2日間天気で、
何とか実施できるコースコンディション。出るは
ずのノビタキがない。モズだけが元気だ。サギ
4種が見られたが、『しらこぼと』に出した「冬鳥
の季節」という案内はサギだった。(福井恒人)

10月6日(日)さいたま市 民家園周辺

参加: 48人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ シマアジ オナガガモ
ホシハジロ キンクロハジロ バン オオバン
イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ ヒバ
リ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29
種) 例年になく数が多いノビタキ。このノビタキ
を見なければ差間の秋は始まらない。暑さを感じ
たが、日陰ではさわやかな風が吹き抜け、冬鳥の
一陣も到着。カモ類の中からシマアジを見つける
ことができた。工事のためか、カモの数のピー
クは秋のこの時期。1995年10月から始まったこの
探鳥会も8年目に入り、出現鳥は今回のシマアジ
で88種。(手塚正義)

10月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 44人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ トビ
オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ
キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ
ショウドウツバメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シ
ジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ム
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28
種) 汗ばむほどの陽気となり、「小さい秋を見つけ
よう」という気分には程遠い。それでもいたる所、
モズの高鳴きが響き、縄張り争いも見ることがで
きた。ツツドリやノビタキの出現も、渡りの季節
を実感させる。遠くのオオタカまで見通せるのも
天高き秋の賜物である。(榎本秀和)

10月19日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大

坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、後藤康夫、原
田譲、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、百瀬修

10月20日(日) さいたま市 三室地区

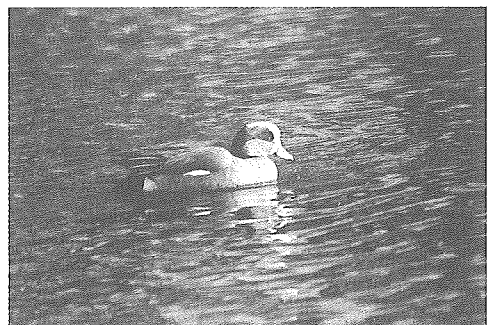
参加: 42人 天気: 曇一時小雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサ
ギ アオサギ カルガモ コガモ バン キジバ
ト イソシギ ツツドリ カワセミ ヒバリ ハ
クセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ノ
ビタキ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガ
ラス (26種) 先月に続いてツツドリ出現。今月は
赤色系だ。サギ類も4種類。ノビタキも秋の見沼
を表現するように出現。前日より雨の予想で心配
したが、少し小雨を見た程度で楽しく探鳥。今月
から期待の新リーダー赤堀さん登場。(楠見邦博)

10月27日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 22人 天気: 晴

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ ホ
シハジロ オオタカ チョウゲンボウ バン キ
ジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジウカラ
メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 穏やか
な探鳥日和。この秋、エゾビタキも見えていない担
当リーダーとしては、今日あたり、ジョウビタキ
やツグミの初認と行きたいところだが、残念なが
ら声も聞かれず。渡りが遅れているのかカモも少
ない。旅の途中のツツドリが、ちょっと見せ場を
作ってくれた。(榎本秀和)



アメリカヒドリ (松村禎夫)

先月号の7月7日渡良瀬遊水地は、実施場所の記
載が間違っていました。正しくは「群馬県板倉
町」です。お詫びして訂正します。m()m

連 絡 帳

●2002 年秋シギ・チドリ類調査報告の訂正

11 月号 5 ページの表に誤りがありました。ゴシック文字の部分で訂正します。

秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年度	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	合計
天候	晴れ	曇り	晴れ	雨	雨	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	雨	曇り	晴れ	曇り	曇り	雨曇	
1 タマシギ					1												1
2 コチドリ		26						11	1		13						51
3 シロチドリ				2	2												4
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105				1084
5 ケリ		2															2
6 キョウジョシギ					2												2
7 トウネン					2		2										4
8 ヒバリシギ																	1
9 エリマキシギ		1															3
10 クサシギ	1	1			1			1		1							5
11 タカブシギ	36	15		12	17						4					3	87
12 イソシギ					5		1				1						7
13 ホウロクシギ													1				1
14 コチャクシギ												6					6
15 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	553
16 オオジシギ										2				1			3
ジシギ属	2	1			8			2			1	2	1			3	20
17 アカエリヒレアシシギ					9												9
チドリ類											1						1
シギ類													1				1
合計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	1845

●普及活動

10 月 20 日 (日) 三郷市立さつき小学校周辺で開催された近隣小中学生の身近な自然の観察会で、山部直喜が指導。

11 月 16 日 (土) 彩湖で開催されたさいたま市文蔵公民館主催の親子野鳥観察会で、倉林宗太郎、赤坂忠一、尾崎甲四郎、百瀬修の各氏が指導。

11 月 19 日 (火) 三郷市立瑞穂小学校で開催された環境教育講演会で、山部直喜が講演。

●1 月の事務局 土曜と日曜の予定

- 4 日 (土) 2 月号編集作業。
(2 月号の校正作業は、山部編集部長が日にちを予め決めずに行います。お任せください。)
- 18 日 (土) 袋づめの会。
- 19 日 (日) 役員会。

●会員数は

12 月 1 日現在 2,626 人です。

活 動 報 告

- 11 月 9 日 (土) 校正作業 (海老原美夫、大坂幸男、山田義郎)。
- 11 月 17 日 (日) 役員会議 (司会：藤掛保司、各部の報告・1 月～4 月の行事予定の変更など・その他)。
- 11 月 18 日 (月) 支部報のみの会員宛て 12 月号を郵便局から発送 (倉林宗太郎)。

編 集 後 記

数字がひとつ抜けていただけですが、連絡帳欄をほとんど埋めて訂正の表を掲載しました。後記にも書きたいことがあったのに… (海)

しらこぼと 2003 年 1 月号 (第 225 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒336-0012 さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社